

このたび、量研が作成し、HP で公開している「放射線被ばくの早見図」の図中に「100mSv 以上の放射線被ばくについて「がん死亡のリスクが線量とともに徐々に増えることが明らかになっている」と記載している点について、以下のお問い合わせをいただきましたので、以下の通り、回答させていただきます。

頂きました公開質問状の前文において、『100mSv 以上の放射線被ばくについて「がん死亡のリスクが線量とともに徐々に増えることが明らかになっている」と説明している。これは、とりもなおさず、100mSv 以下の線量で被曝リスクが明らかでないことを主張する説明である。』とありますが、早見図では、100mSv 以下の線量については言及しておりません。

1) として、『ICRP2007 年の勧告には「がんの場合、約 100mSv 以下の線量において不確実性が存在するにしても、疫学研究及び実験的研究が放射線リスクの証拠を提供している」と記述されている。標記の早見図は ICRP2007 年勧告を典拠にあげているが、ICRP のこの重要な記述をあえて記載しないのはなぜか。』といったご質問をいただきましたが、これは、図としての見やすさから文章量は最小限としたことによります。

2) として、『(・・前略・・) 100mSv で 2 分割してリスクが明らかであるとかないとかと結論するのは「誤った思い込みと貧弱な意思決定」を誘導する可能性があるという指摘である。このような統計学者からの警告をなぜ無視するのか、その理由を明らかにされたい。』とのご質問をいただきましたが、早見図では、100mSv 以下の線量について言及しておりません。

3) として、『2011 年 4 月に公表した早見図では、100 mSv 以下の放射線について「がんの過剰発生がみられない」と記述していたが、貴研究所はこれを「がんが過剰発生しないことが科学的に証明されている」という誤解を与えるという理由で現在の表現に修正

したと説明している。しかし、修正した早見図でもやはりこうした誤解を許す余地を残している。誤解を避けるためには早見図に 100mSv 以下で「がんの過剰発生がないことは科学的に証明されていない」と書き込めばすむと考えるが、なぜそうしないのか。貴研究所の見解を聞きたい。』とのご質問をいただきましたが、これは、よりわかりやすい表現として、現在の表現を採用したことによります。

4) として『早見図は放射線副読本を通じて学校教育にも利用されている。誤った知識や科学観を広める起点になっているのではないか。早見図は是正すべきであると考えますが、いかがか。』とのご意見を頂きました。この点に関しては、今後とも必要に応じ不定期的に改訂し、最新の情報を盛り込むように努めます。

国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構

量子生命・医学部門 放射線医学研究所

所長 山下 俊一